

第一部 基調講演

【第1報告】

## 本テーマを構想した背景について

折 橋 伸 哉

東北学院大学経営学部教授・博士（経済学）

このテーマを構想させていただいた背景につきまして、簡単に説明をさせていただきます。

まず、私どもの研究チームがこれまでどのような取り組みをしてきたのかということを中心に振り返ってみたいと思います。

2000年代半ば以来、継続的に経済学あるいは経営学の観点から、東北地方において自動車産業を振興する上での課題についてさまざまな角度から探究してまいりました。そして、2008年10月に最初の公開シンポジウムを開催させていただいたのに続き、以後毎年、公開シンポジウムを開催してまいりました。2011年には東日本大震災が発生してしまいましたが、その秋には、大震災による影響についても分析をいたしました。2013年に一連の研究成果を1冊の書物、折橋・目代・村山編著『東北地方と自動車産業－トヨタ第三の拠点をめぐって－』（創成社刊）にまとめさせていただきました。

これまでの研究は、自動車産業のパラダイムは当面大きくは変化しないだろうという前提に立って議論を進め、本にもまとめさせていただきました。しかしながら、原油の可採埋蔵量が既にピークアウトし、今後、間違いなく先細りになっていくというのが現状でありますし、かねてよりCO<sub>2</sub>排出量の削減の必要性も世界的に大きく叫ばれているところでもあります。したがって、これまでT型フォード以来100年余りにわたって続いてきた内燃機関を活用した自動車に替わる次世代の自動車の必要性が高まってきているわけでもあります。

その一方で、次世代自動車にすぐ一足飛びに行くというわけでも必ずしもなさそうでありまして、内燃機関の自動車の進化も期待される場所でもあります。特に最近よく目につくのは、急速に軽自動車を中心に普及しておりますけれども、アイドリングストップですね、そういったものも含めた進化ということも期待される場所でもあります。

次世代自動車の秘める可能性について見てみますと、現行の自動車の開発、生産については、先ほどご紹介いたしました本で明らかにいたしましたように、東北地方のプレゼンスをその中で高めていくには高いハードルが存在いたします。しかしながら、その産業のパラダイム自体を大きく変え得る可能性を秘めた次世代自動車の登場ということになりますと、自動車産業において東北地方の飛躍をもたらす可能性を大いに秘めているのではないかと考えております。

本日のシンポジウムは、次世代自動車の開発に向けた最新の動向や取り組みについて識者にご紹介いただくということを第一の目的としております。それから、東北地方が次世代自動車において世界的に貢献できる存在になるための産学官連携のあり方についても議論を進めていきたいと考えております。